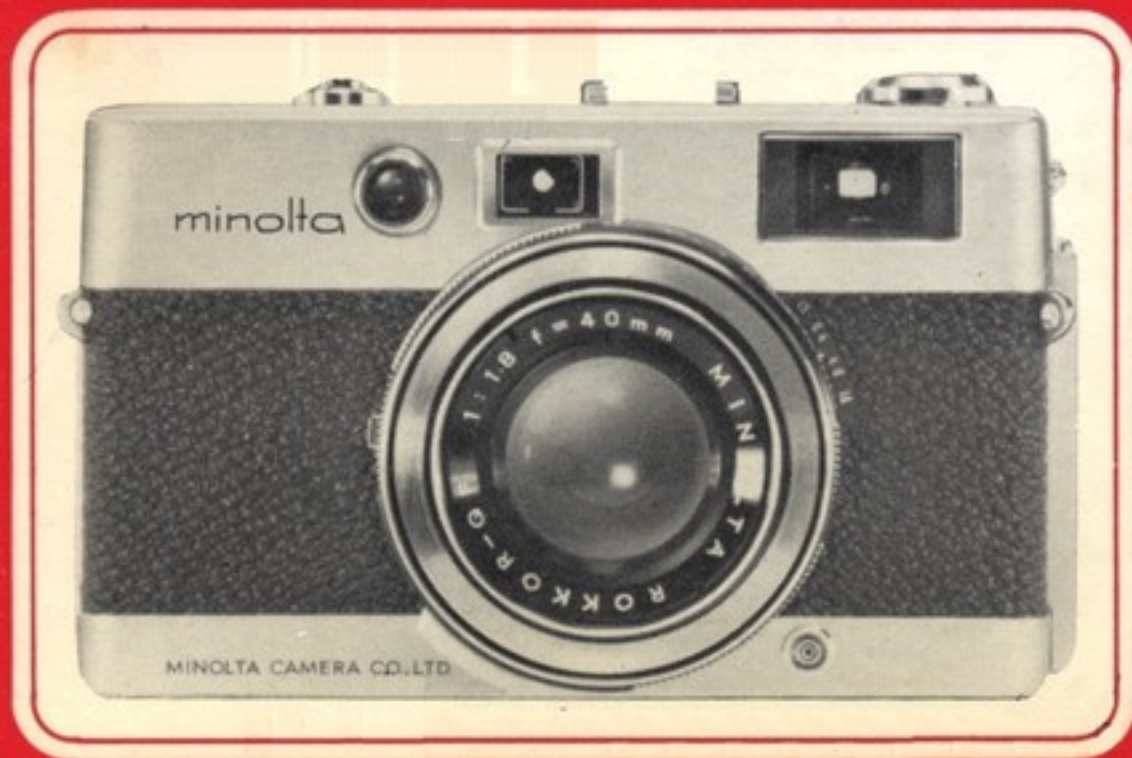


Minolta ALS

使用説明書



アマからプロまで……

このたび ミノルタALSをお買上げいただき ありがとうございます

ミノルタALSは アマからプロまで すべての方にご満足のいただけるカメラの本格派 しかも 35ミリフルサイズでは世界最小のコンパクトカメラです

CdS露出計で測定は正確です。またノンコードガンクリップでフラッシュ撮影も容易です

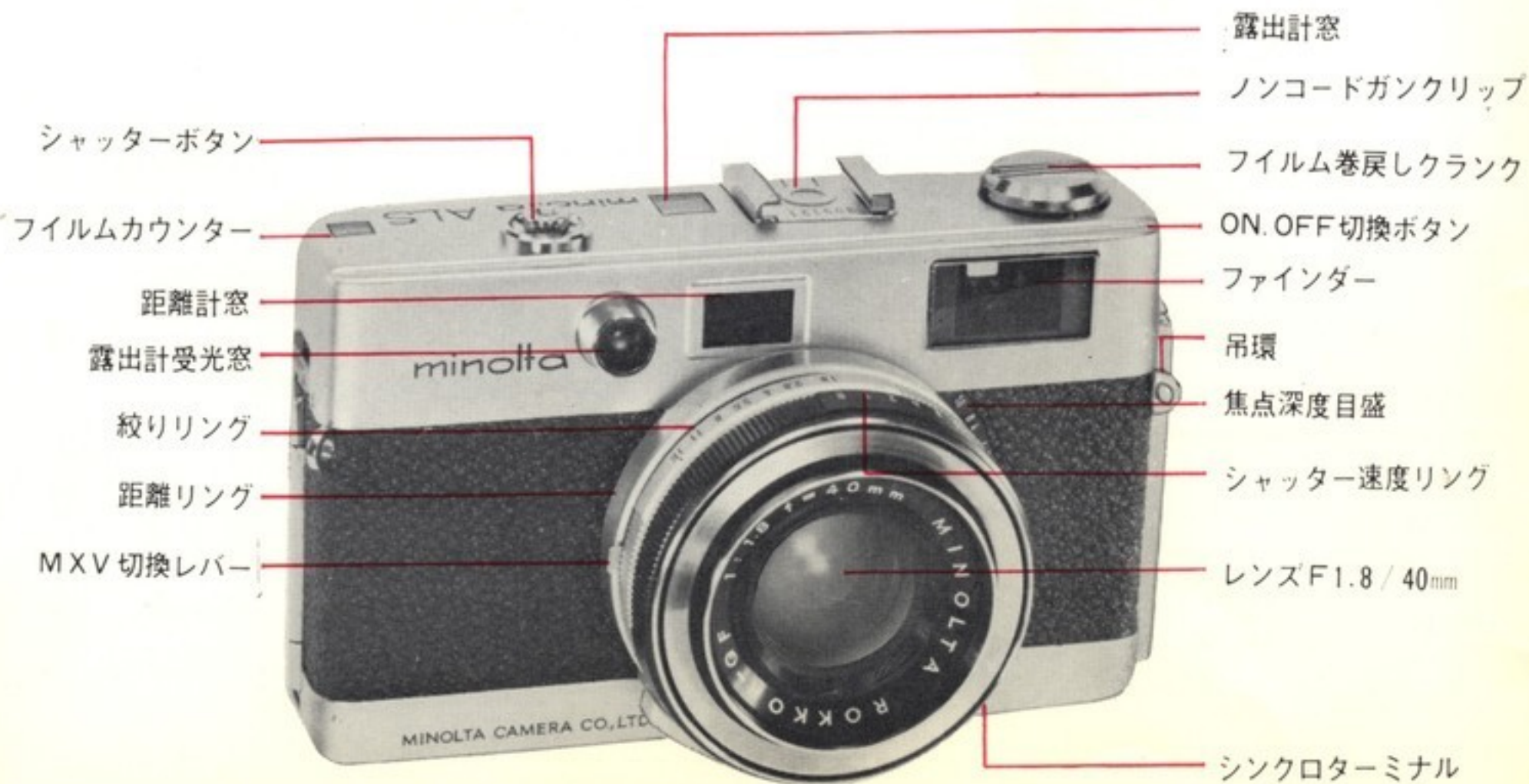
カメラをはじめて手にした方でも上手な写真ができます。またEEカメラにもものたりない方も十分に腕前を發揮して高度の写真を作ることができます

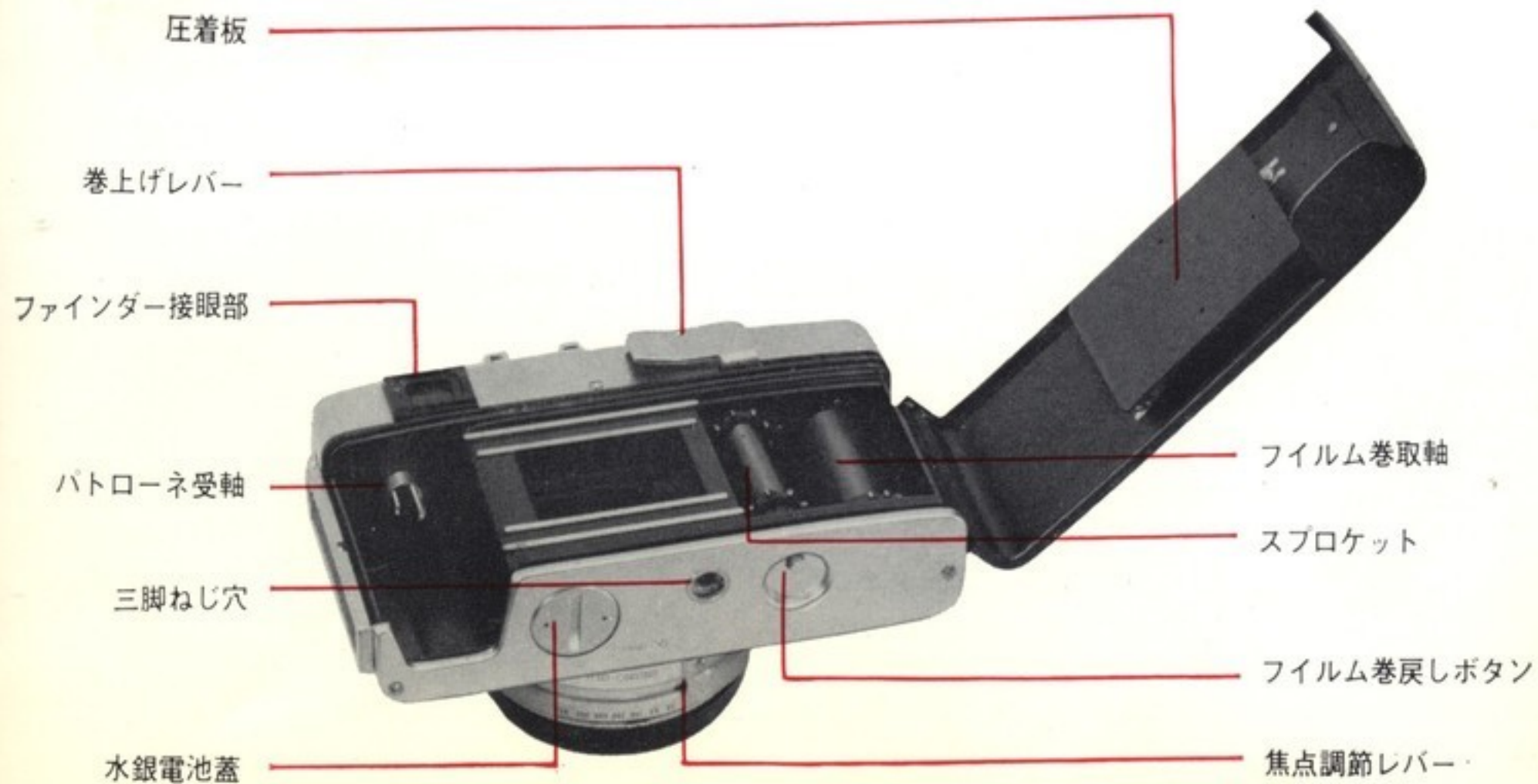
どんな方にもカメラをいじる醍醐味を十二分に味わせてくれるカメラです

目次

ミノルタ A L S 各部の名称	2
主な性能	4
撮影の前に	5
カメラ操作はきわめてカンタン	6
フィルムの入れ方は	10
露出の測り方	14
絞りとシャッター	18
カメラの構え方	19
ファインダーの見方	20
ピントの合わせ方	21
被写界焦点深度	22
セルフタイマーはこんなときに	24
フラッシュ撮影は	26
撮影は完了しました	30
アクセサリーで写真を楽しむ	32
カメラの保存と手入れ	36

各部の名称





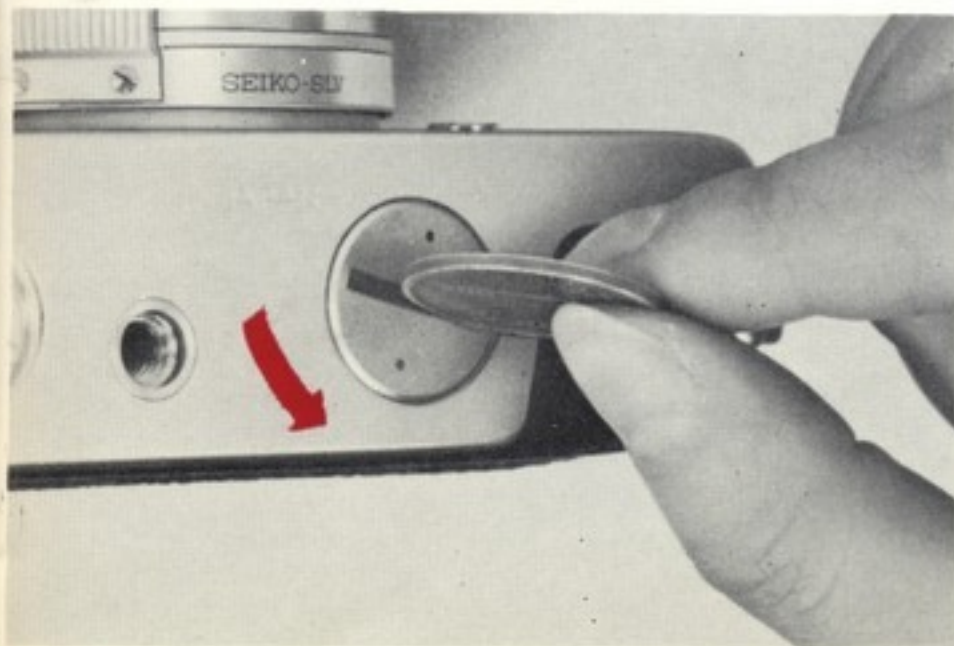
主な性能

形 式	J-135 (パーフォーレーション付35ミリ) フィルムを使用し画面サイズ24×36ミリの 露出計連動カメラ
レ ン ズ	ロッコールQ F F1.8 40ミリ (4群6枚)
シャッター	セイコーSLV B.1~1/500 セルフタイマー内蔵
シンクロ接点	M. X接点
露 出 計	CdS 内蔵の定点式露出計連動方式
連 動 範 囲	EV3~17 (ASA100のとき)
使用フィルム 感 度 域	ASA25~800
ファインダー	逆ガリレオ型採光式ブライトフレーム ファインダー パララックス補正マーク 付 倍率 0.5
焦 点 調 節	一眼二重像合致式距離計連動方式 (直進 ヘリコイド)
最短撮影距離	80cm
フィルム巻上げ	レバーによる一操作巻上げ セルフコッキング・回転角 140°
カウ ン タ ー	オートマチックゼロリターン (順算式)
そ の 他	二重露出防止 フィルム巻戻しは押しきりボタン式で 自動復元 クランク式フィルム巻戻し
アクセサリ	フード42ミリ カブセ式 フィルター40.5ミリ ねじ込み式
大きさ・重量	128ミリ×74ミリ×60ミリ 530グラム

撮影の前に

■水銀電池を入れて下さい

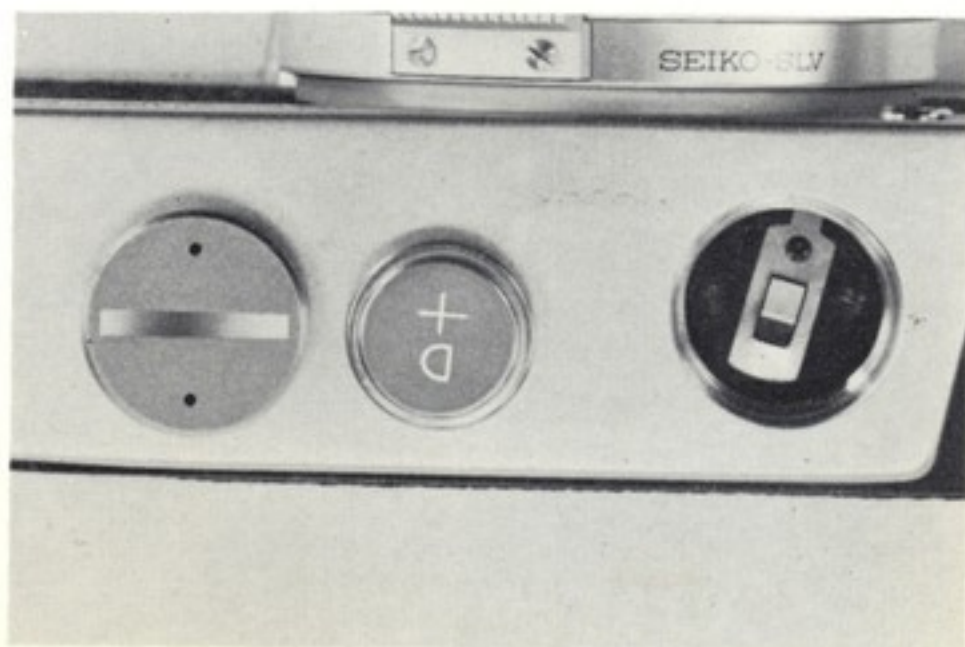
水銀電池は CdS 露出計の電源です
撮影前に別包の水銀電池を入れて下さい



- 1** カメラの底部にある水銀電池蓋に銅貨をあて矢印方向にまわすと 蓋がはずれます

水銀電池はナショナルMDまたは東芝TH-MC
を使用します

水銀電池の寿命は約2年です



- 2** 電池の極の⊕側を上にして 水銀電池を入れ 水銀電池蓋を締付けます

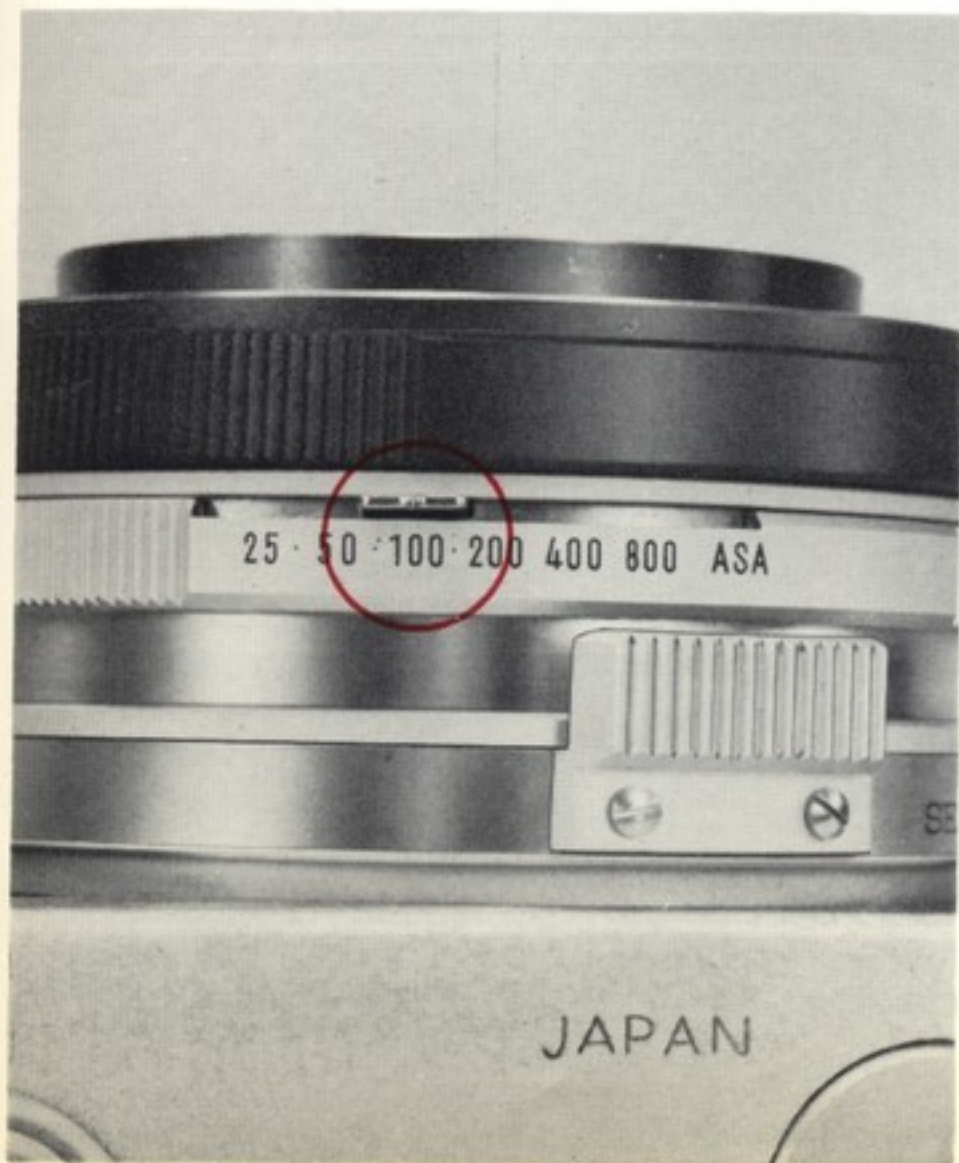
1. フィルムを入れます



ご注意

- ☆水銀電池を入れるとき 電池の極
⊕⊖を間違えないようにして下さい
逆向きに入れると露出計は働きません
- ☆水銀電池は汗や油などで汚れたまま使用すると接触不良を起こすこともあります
- ☆使用しないときは 電池回路をOFFにしておきます
- ☆長期使用しないときは 水銀電池を取出し 乾燥した場所に保管しておきます

2. フィルム感度をあわせます



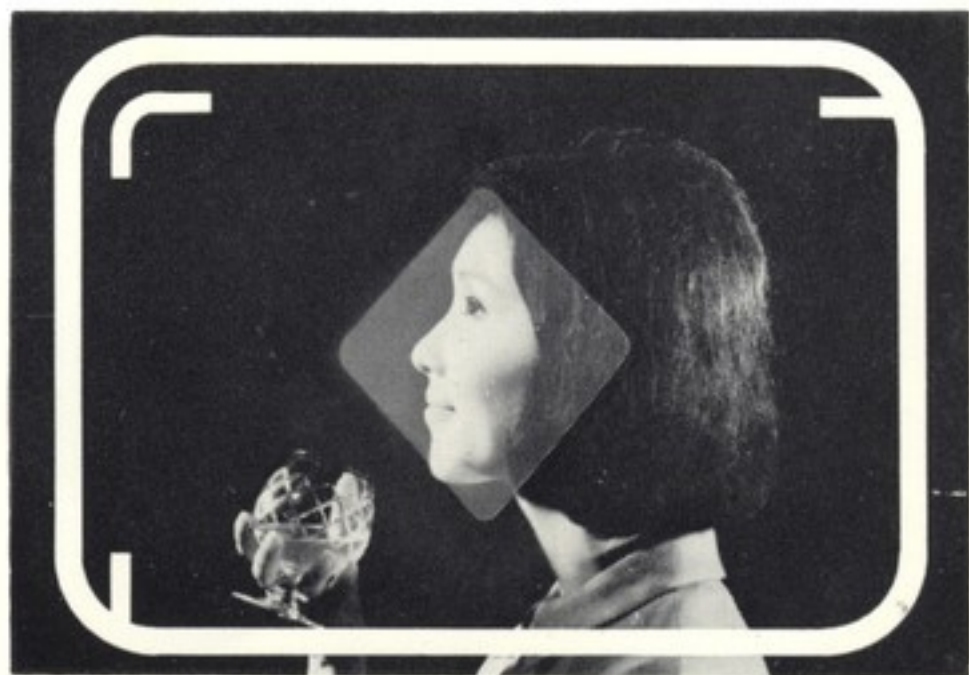
3. 電池回路をONにします



4. 露出を測ります



5. 構図をきめてピントをあわせます



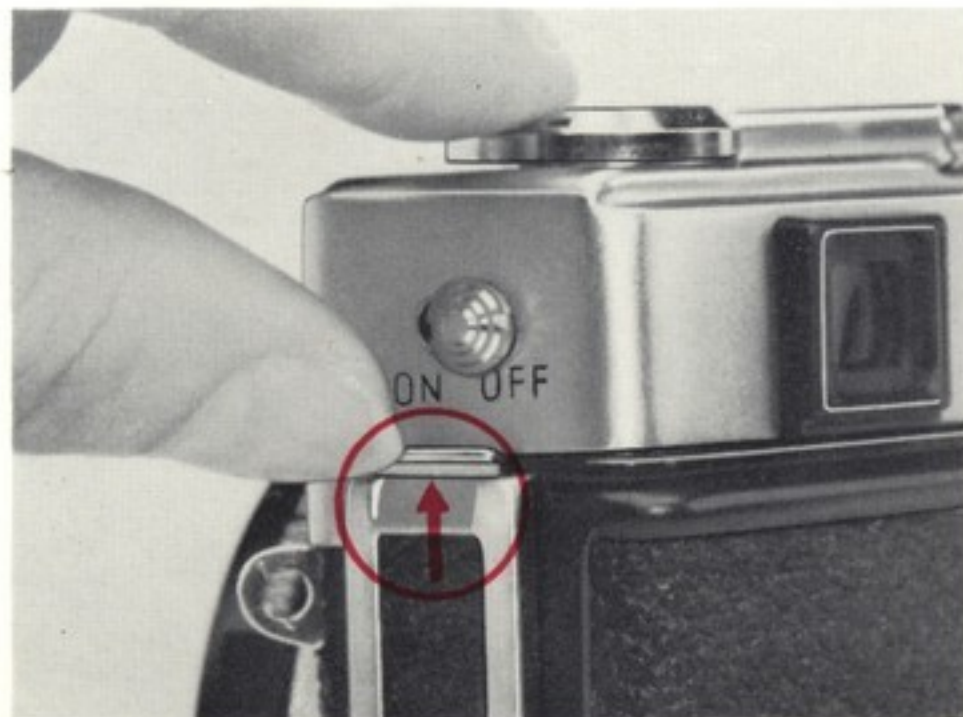
6. シャッターボタンを押します



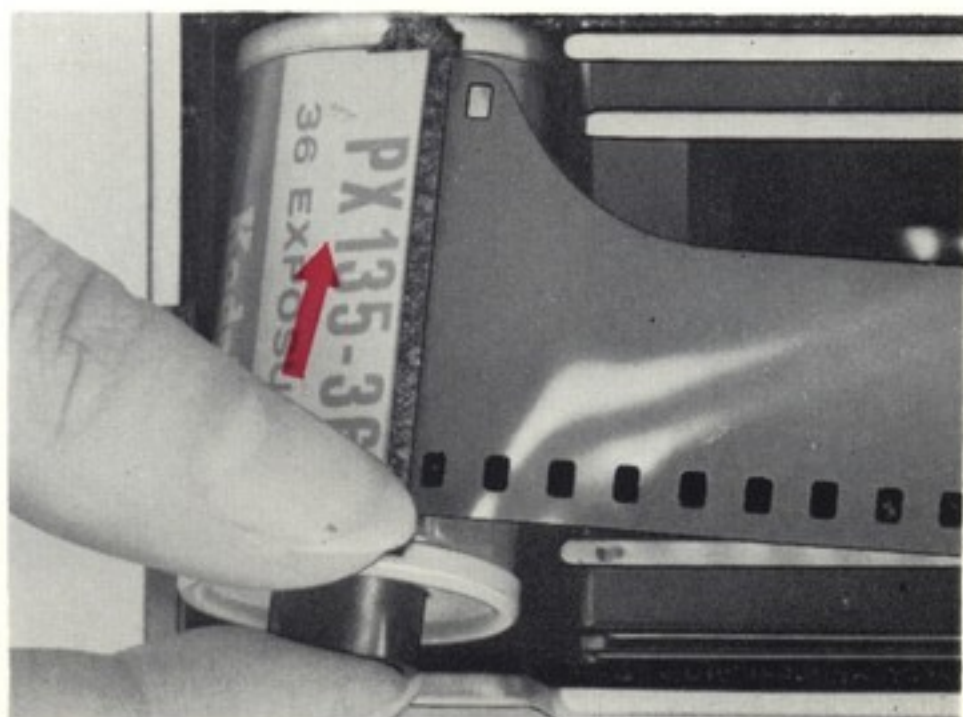
☆通常の撮影には MXV 切換レバーを
X にしておいて下さい

フィルムの入れ方は

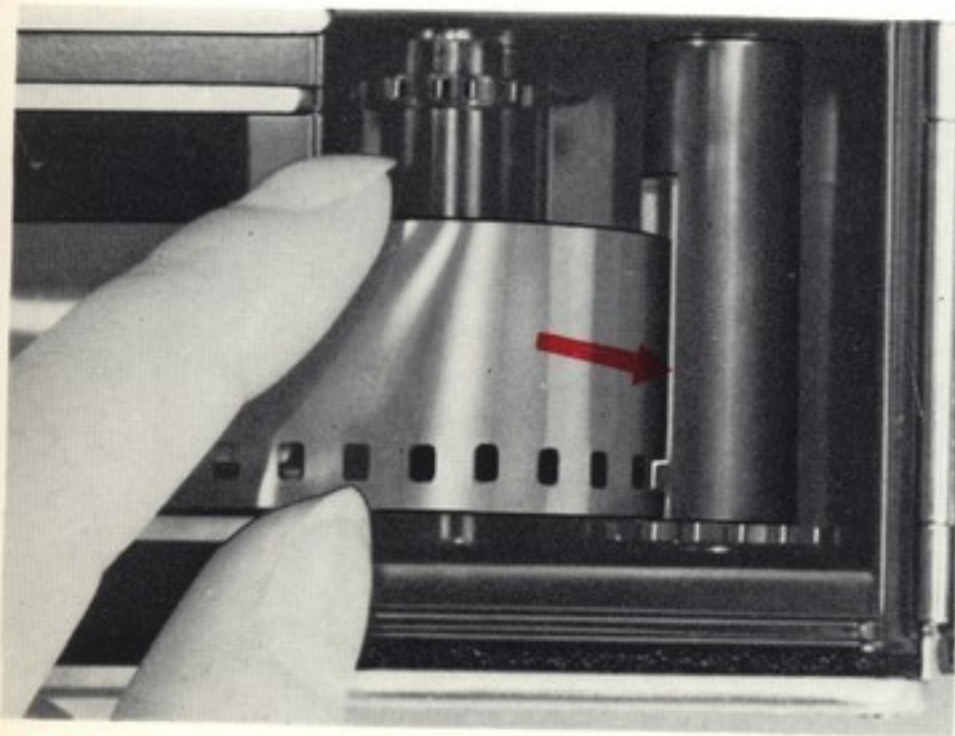
フィルムは確実に入れて下さい。写真撮影の第一条件です



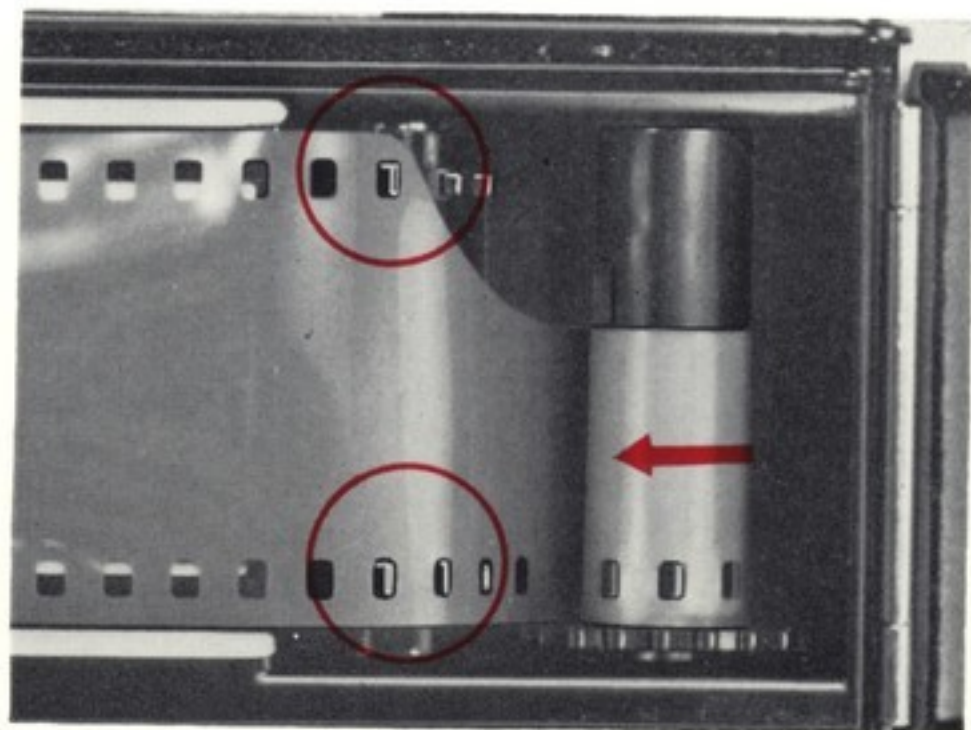
- 1** 裏蓋を開けます
裏蓋ロックを上引くと 裏蓋が自動的に開きます



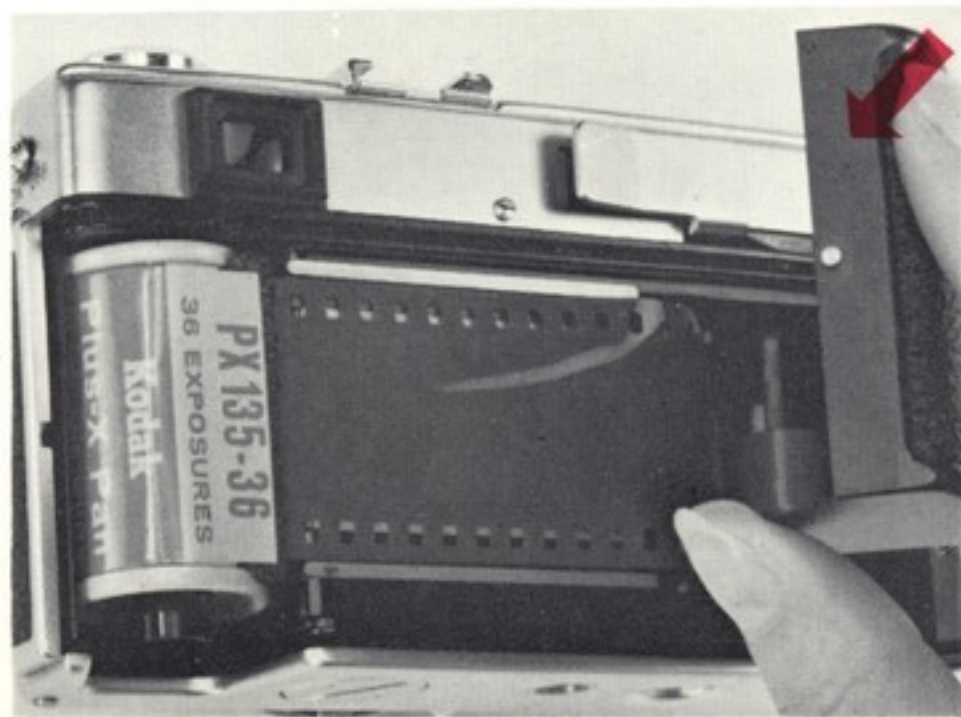
- 2** パトローネを入れます
パトローネをフィルム室に入れます。パトローネの軸がパトローネ受軸につかえた時は 巻戻しクランクを回すとうまく入ります



- 3** フィルムを巻取軸に巻取軸をまわして フィルムの先端を巻取軸の手前側にさしこみます

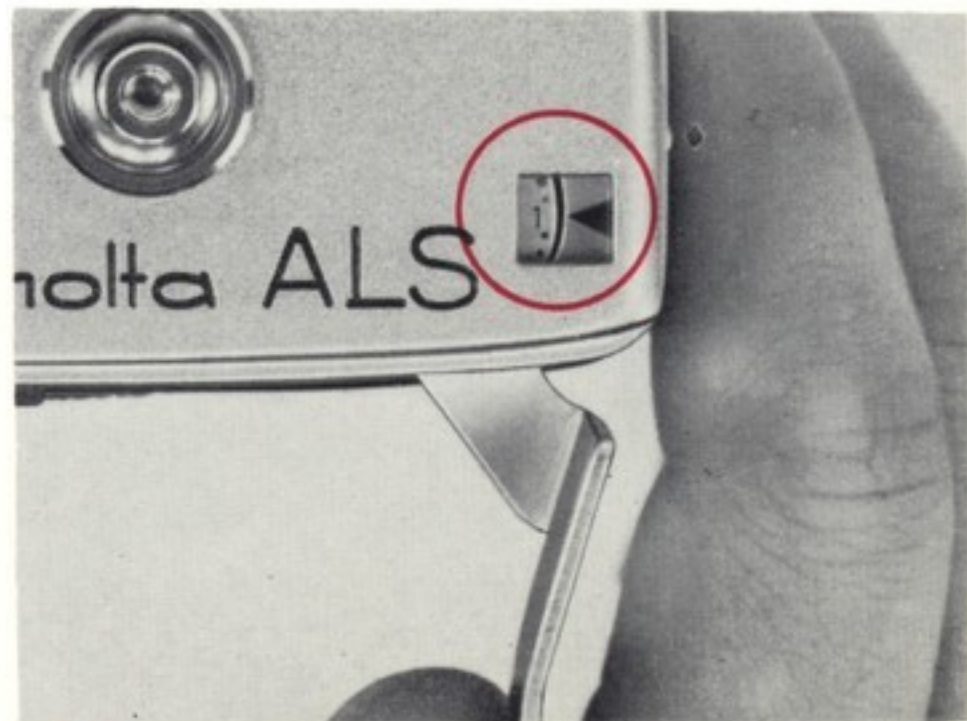


- 4** フィルムは確実に巻上げレバーを除々に巻上げて フィルムの両端の送り穴が確実にスプロケットの歯にかみあうところまで巻上げて下さい。巻上げレバーが動かないときは シャッターボタンを押して巻上げます



5 裏蓋を閉めます

フィルムが正しく送られていることを確かめてから 裏蓋を押して閉めて下さい 自動的にロックがかかります



6

裏蓋を閉めるとフィルムカウンターにスタートマーク（赤点）がでます。レバーを巻上げシャッターを切る操作をくり返してカウンターに1をだします。あとは撮影操作を繰り返すごとに自動的に撮影枚数がフィルムカウンターに表示されます

フィルムカウンターは自動復元式ですから裏蓋を開くとスタートマークに戻ります
巻上げレバーを巻いたとき 巻戻しノブがまわって フィルムが送られていることを示します



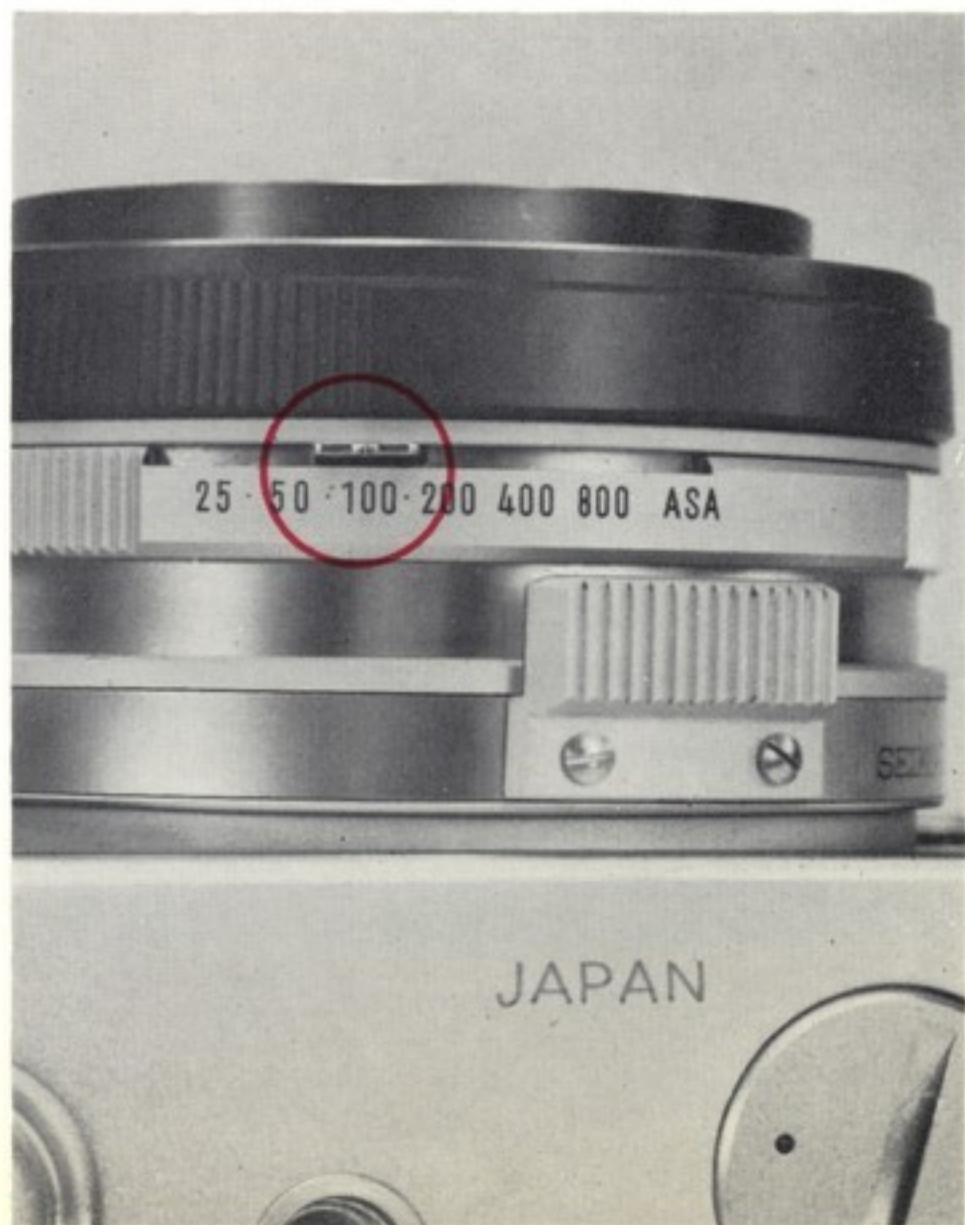
☆ フィルムの出し入れは 直射光をさけて
下さい

露出の測り方

1. フィルム感度を合わせます

このカメラの露出計は フィルム感度 ASA25
～800 までのフィルムが使えます。フィルム感
度はフィルムの箱に表示されていますので ご
使用になるフィルム感度目盛をあわせて下さい

☆ DIN 表示のフィルムは裏蓋にある DIN-A
SA 換算表によってASAに換算して使用し
ます



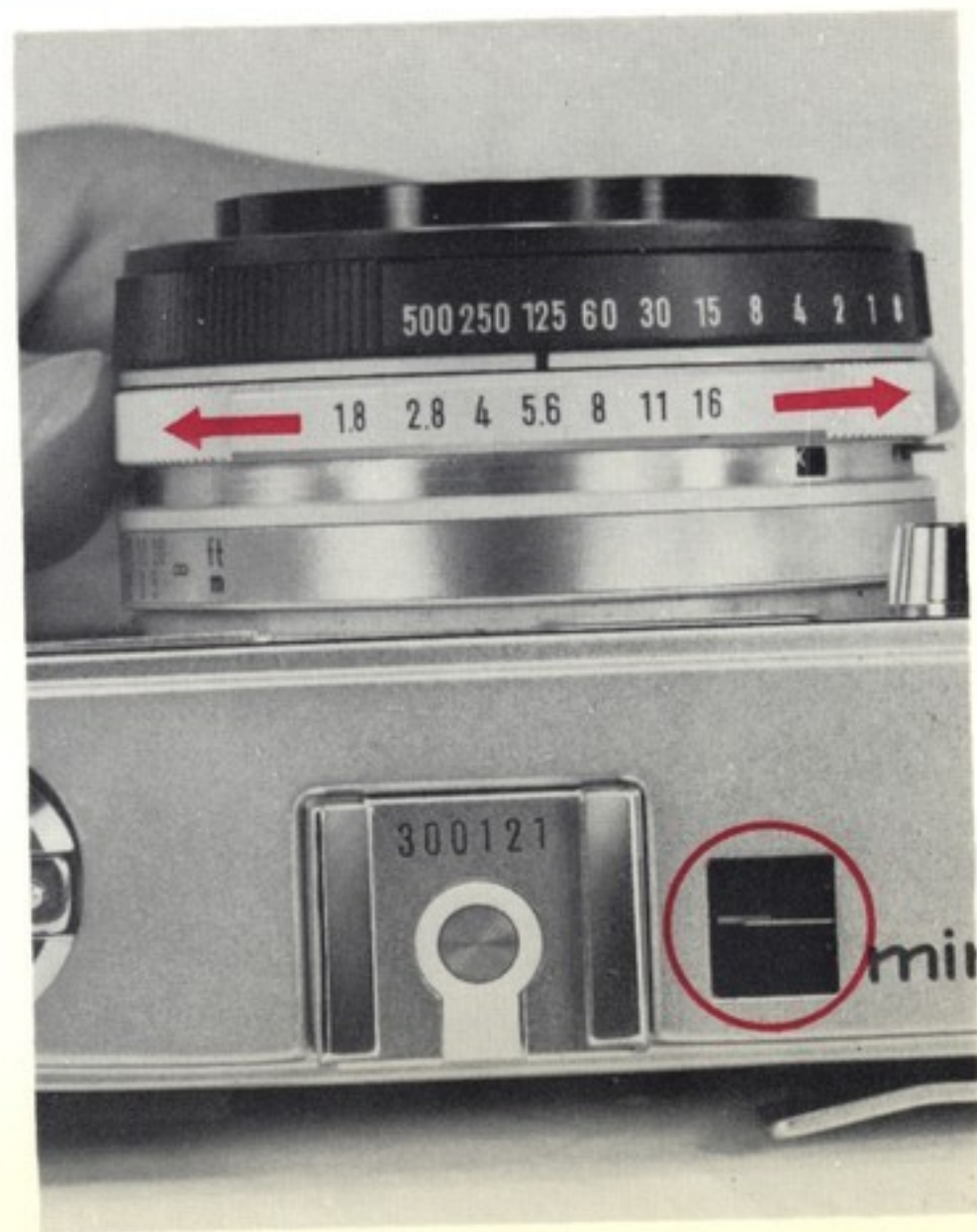
2. 電池回路をONに

ON. OFF 切換ボタンを矢印方向に押してONにします



3. 露出をあわせます

まずシャッター速度を優先的にきめ、それから絞りリングをまわして露出計の指針を受光窓内の金色の指標に合わせます。絞りをきめてからシャッター速度リングをまわして露出をきめることもできます。しかし、この場合にはシャッター速度は段階的に変化し、中間速度が得られないので、普通に使用されるときにはシャッター速度を優先する方がよいでしょう。



ご注意

☆ 1秒以上の露出を与える場合はB（バルブ）を使って下さい。Bはシャッターボタンを押している間シャッター羽根が開いています。このときは必ずレリーズと三脚をお使い下さい

ASA 100のフィルムで露出計の測定範囲はEV3(F1.8、 $\frac{1}{2}$)～EV17(F16、 $\frac{1}{500}$)です

☆ Bでは露出を測定しないで下さい

☆ 絞りリングで指針が動かないときはシャッター速度リングをまわして調整して下さい

☆ 露出を測るときは被写体になるべく近寄って測って下さい。風景では空からの反射が入らないようにカメラをいくぶん下に向けて測ります

4. 撮影の手引

1. 一般に使用されるSS (ASA100) フィルムで明るい室内ではシャッター速度は $\frac{1}{30}$ に
明るい戸外では $\frac{1}{125}$ か $\frac{1}{250}$ に 最初からセットします
2. 動きの速いものを写す場合は シャッター速度はできるだけ速くするのが原則です。同じ動体でも近いほどシャッター速度を速くします
3. 集合人物とか奥行の深いものにピントをあわせるときは 絞りをできるだけ小さくします。そのときシャッター速度リングが目盛の中間にきた場合には どちらかのクリックにあわせ 絞りで調節します
4. 手持の場合 シャッター速度が $\frac{1}{30}$ 以下になると手ぶれが起こって シャープな写真ができないことがあるので 普通は $\frac{1}{30}$ 以上のシャッター速度で撮影します
5. フィルター使用の場合 ASA感度をフィルターの倍数で割った値をASA目盛にあわせます。例えば ASA 100のフィルムで露出倍数2のフィルターを使うときは
 $ASA 100 \div 2 = ASA 50$ をカメラにセットして下さい

絞りとシャッター

絞り シャッターともにフィルムに与える光の量を加減するものです

シャッターはフィルム面に光のあたる時間を調整するもので一定の露出時間を与えます

同一の絞り値ではシャッター速度を一段速くすると光量は $\frac{1}{2}$ になります。このカメラのシャッター速度は1秒から $\frac{1}{500}$ 秒まででそれぞれの目盛は倍数系列となっています

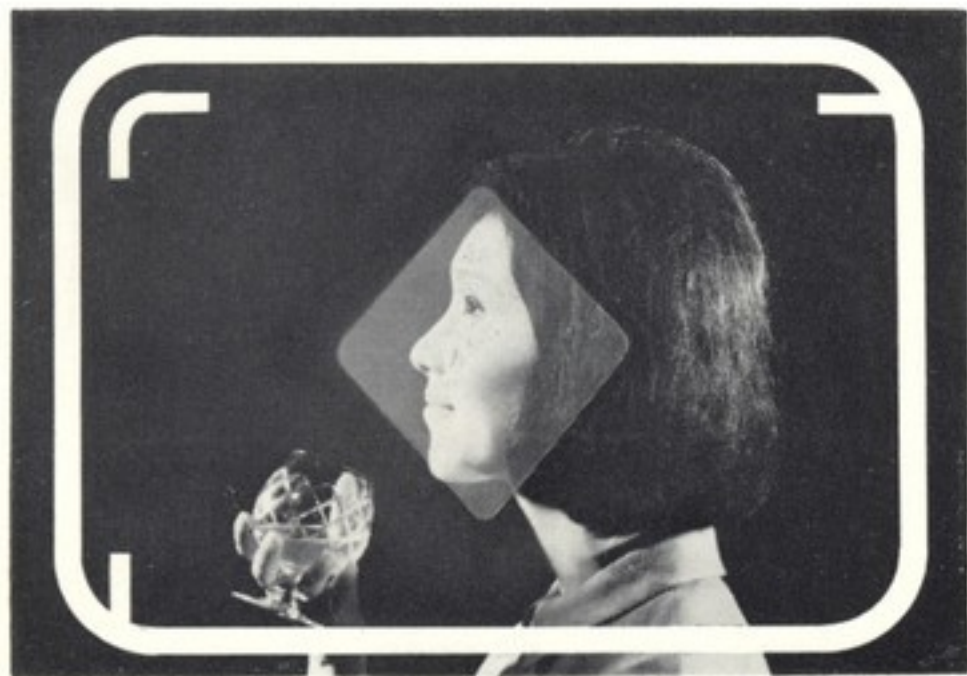
絞りは主に光の入る量を調整しますが それとともにピントの合う範囲を加減するものです
絞り目盛はF値で表わされ目盛ひとつの変化で光量が2倍または $\frac{1}{2}$ になる値を用いています
このカメラはF1.8~F16まであり その関係は図のようになっています。ですから普通戸外で写すときは絞りの口径を小さく つまりF値を大きくし反対に曇天や暗いところでは光量が少ないので絞り口径を大きく つまりF値を小さくすればよいわけです

絞り値	1.8	2.8	4	5.6	8	11	16
光量比	2.4	1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{16}$	$\frac{1}{32}$

カメラの構え方

カメラの構え方には大きく分けて縦位置と横位置があります。この場合手ぶれを起こさないことが写真のきばえをきめる重要なポイントです。カメラを動かないようにしっかり持って静かにシャッターボタンを押して下さい。横位置のときには右肘をぴったり身体につけて縦位置の場合にはカメラを顔の一部にあてて支えるなどしましょう。シャッター速度が遅くなるほど手ぶれの危険がまします。 $\frac{1}{30}$ 以下のときにはとくにご注意下さい





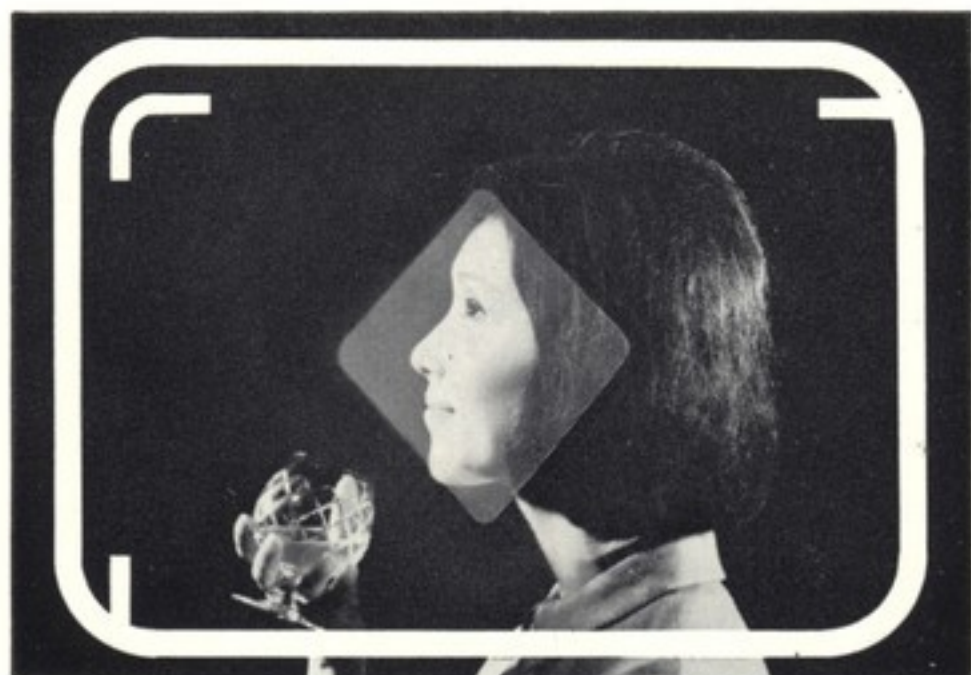
ファインダーをのぞきますと周囲にブライトフレーム（光像枠）が見えます。このフレームにかこまれた部分がフィルム画面に写ります。しかし近距離の被写体を写す場合には、写る範囲が多少ずれますので1m付近のものを写すときにはフレームの補正マーク（上部及び左側）の範囲に合わせて構図を決てめ下さい。

ピントのあわせ方

ファインダーの接眼枠中央に眼を正しくあててのぞきます。ピント調節は焦点調節レバーをまわします



1. ピントのあっていないとき
写真のようにファインダー中央の像が二重になっています



2. ピントがあったとき
写真のようにファインダー中央の像が重なっています。(このときの距離目盛がカメラから被写体までの距離を示します)

被写界焦点深度

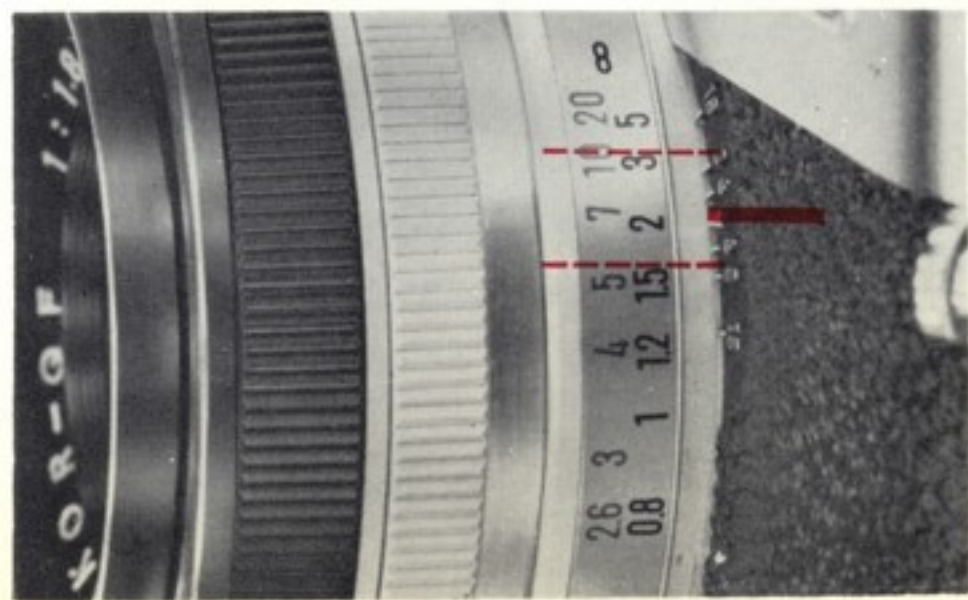
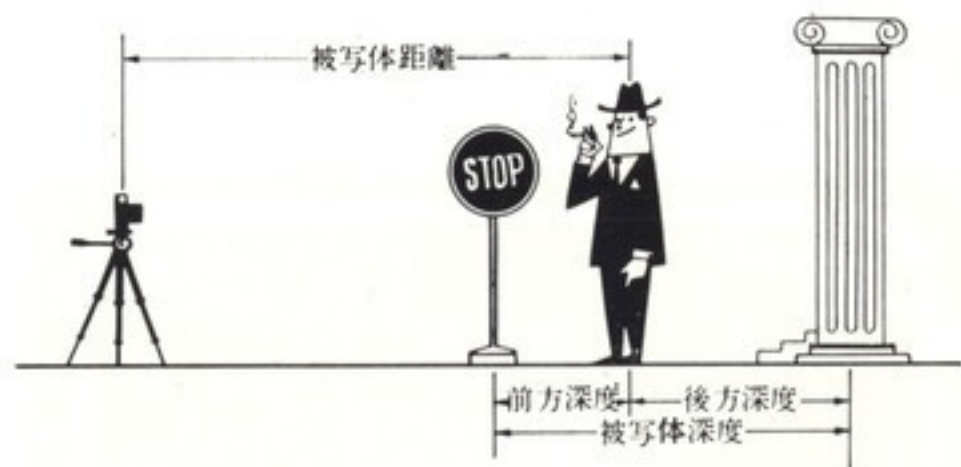
レンズは ある一点にピントを合わせるとその前後にいくらかピントの合っている範囲があります。これを焦点深度といい 後方深度は前方深度よりも深い性質を持っています

焦点深度は絞りの口径を小さくするほど深くなり 絞りの口径を大きくするほど浅くなります この特長を生かし 撮影の目的によって 適切な絞りを選べばよいこととなります。この関係は図のようになります

A L Sには写真のように焦点深度目盛がついています。これは被写体にピントをあわせたとき使用絞りでどの範囲の距離までピントがあっているかを示すものです

例えば 写真のようにカメラから被写体までの距離を2mとしますと F 8では約1.5mから3mまで F16になりますと1.2mから5mまでの範囲にあるものには ピントが合っていることを示しています

なお くわしい被写界深度については次表をご覧ください



F1.8/40mmレンズ被写界深度表

距離 (m) \ 絞り (F 値)	1.8	2.8	4	5.6	8	11	16
∞	26.6 ∞	17.1 ∞	12.1 ∞	8.6 ∞	6.1 ∞	4.3 ∞	3.0 ∞
5	4.23 6.23	3.89 7.06	3.57 8.40	3.2 11.8	2.8 26.5	2.4 ∞	1.9 ∞
3	2.71 3.37	2.57 3.61	2.42 3.94	2.25 4.53	2.04 5.76	1.80 9.35	1.55 ∞
2	1.87 2.15	1.80 2.25	1.73 2.37	1.64 2.57	1.53 2.91	1.39 3.60	1.24 5.41
1.5	1.43 1.58	1.39 1.63	1.35 1.69	1.29 1.79	1.22 1.95	1.14 2.23	1.03 2.79
1.2	1.15 1.25	1.13 1.28	1.10 1.32	1.07 1.38	1.02 1.46	0.96 1.61	0.89 1.88
1.0	0.97 1.03	0.95 1.05	0.93 1.08	0.91 1.12	0.87 1.17	0.83 1.26	0.78 1.42
0.9	0.87 0.93	0.86 0.94	0.85 0.96	0.82 0.99	0.80 1.04	0.76 1.10	0.72 1.22
0.8	0.78 0.82	0.77 0.83	0.76 0.85	0.74 0.87	0.72 0.90	0.69 0.95	0.65 1.04

セルフタイマーはこんなときに

撮影している人も 記念撮影や旅行などでは一緒にカメラにおさまりたいものです。こんなときにはセルフタイマーをお使いになると便利です



1 MXV 切換えレバーを動かして V にセットします

2 露出を決めピントを合わせてからシャッターボタンを押します

3 約10秒後にシャッターが切れます

(ご注意)

セルフタイマーを使用してフラッシュ撮影をするときには シンクロ接点は X になります。閃光球を用いてセルフを使うときにはシャッター速度を $\frac{1}{30}$ にして下さい。フラッシュ撮影については「フラッシュ撮影」の項目をご覧ください



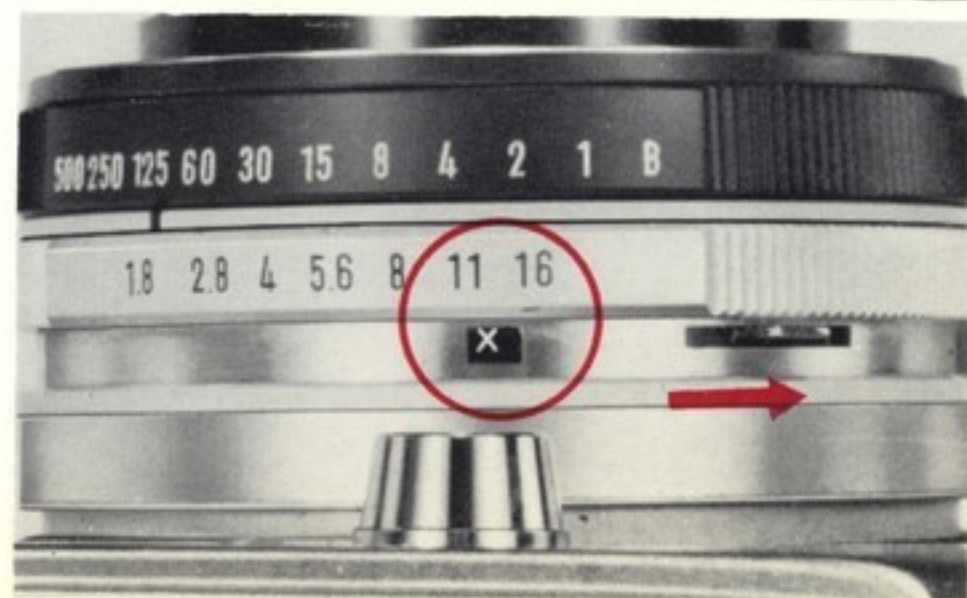
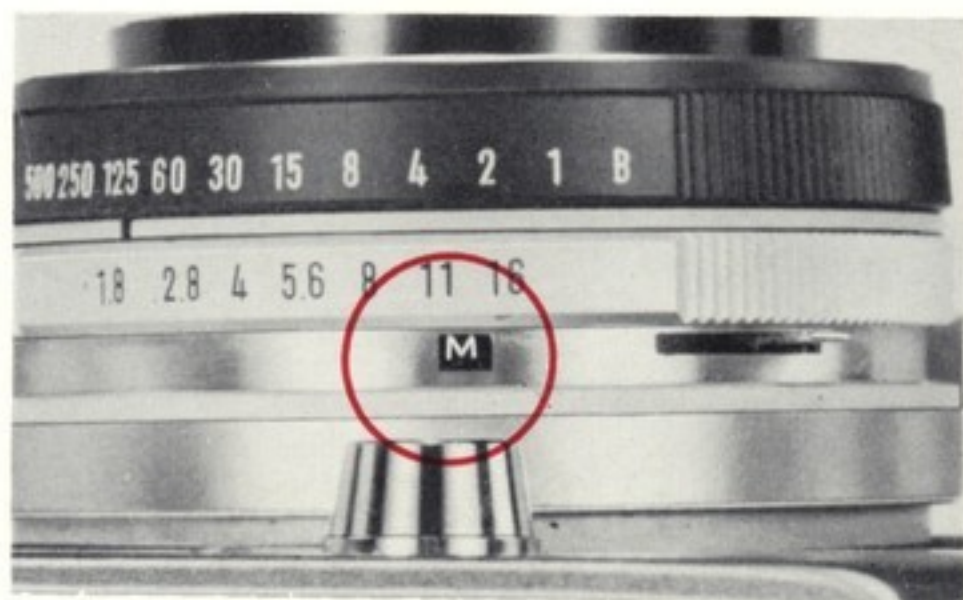
フラッシュ撮影は

夜間や光量不足の場合には フラッシュバルブ
(閃光球) かスピードライト (ストロボ) を用
いてフラッシュ撮影を行ないます

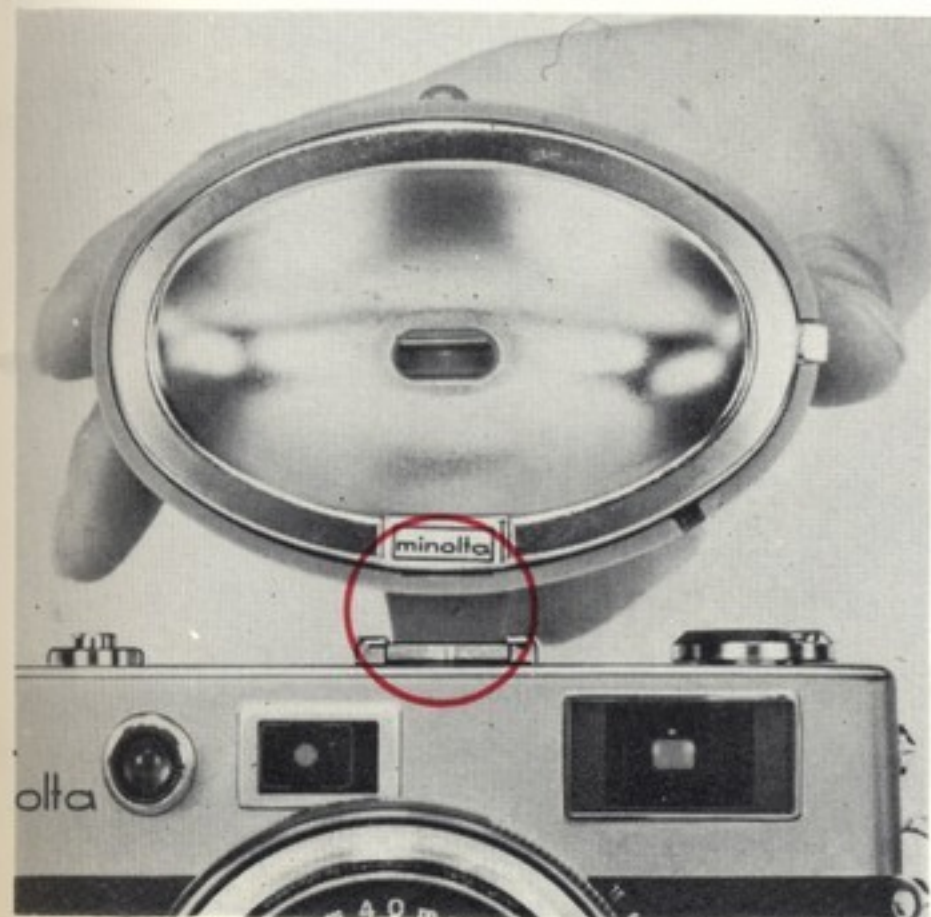
撮影の方法

1. シンクロ接点を選びます

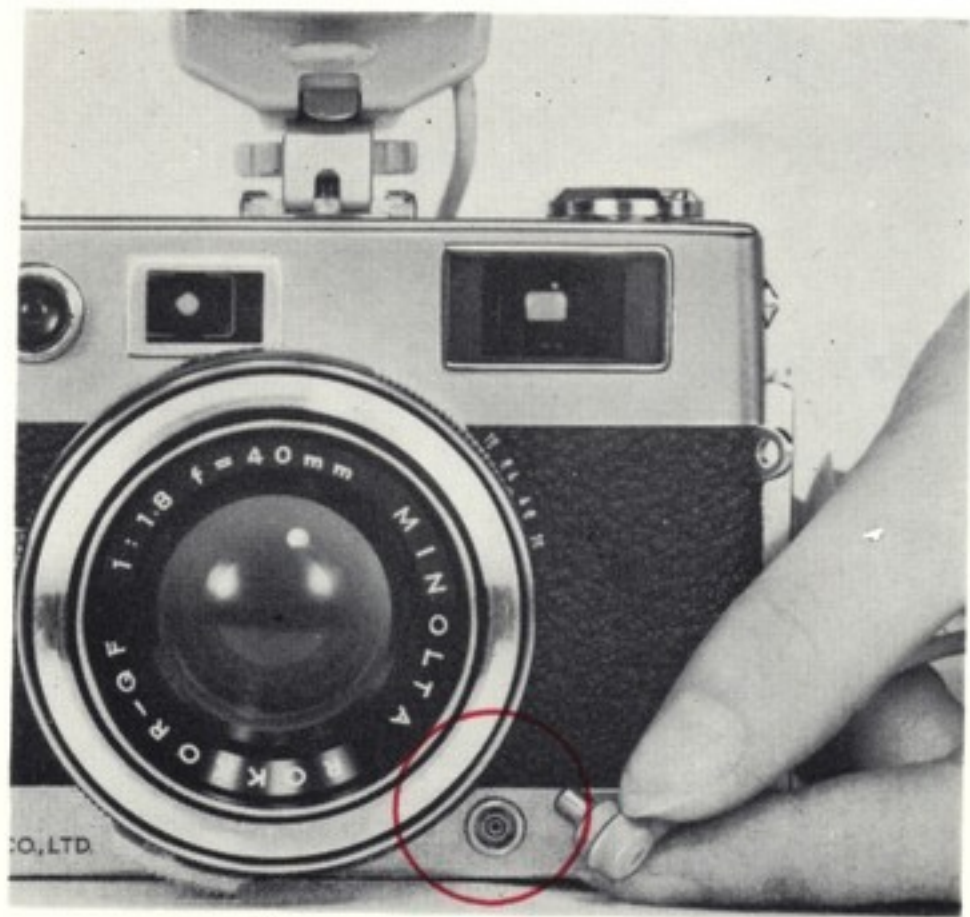
M球のフラッシュバルブの場合は切換レバー
をMにセットします
スピードライトのときは Xに切換レバーを
セットします。(いずれも全速度に同調しま
す)



2. フラッシュガンを取りつけます



- 1** ミノルタ デュオフィットガン（専用ガン）使用のとき
デュオフィットガンの取付けシューをノンコードガンクリップに取り付けます
（シンクロコードの操作はいりません）



- 2** その他のフラッシュガン使用のとき
フラッシュガンの取付けシューをクリップに取り付けます。シンクロコードの先端をかカメラのシンクロターミナルにさしこみます

3. 露出のきめ方

1. 閃光球またはスピードライトを用いる時使用するフィルムとシャッター速度によってそれに対応するガイドナンバーを読みとります
(ガイドナンバーは閃光球またはスピードライトの説明書に記入してあります)
2. ガイドナンバーがわかると次式によって絞りまたは被写体距離を求めます

$$\text{求める絞り} = \frac{\text{ガイドナンバー}}{\text{被写体距離}}$$

$$\text{被写体距離} = \frac{\text{ガイドナンバー}}{\text{絞り}}$$

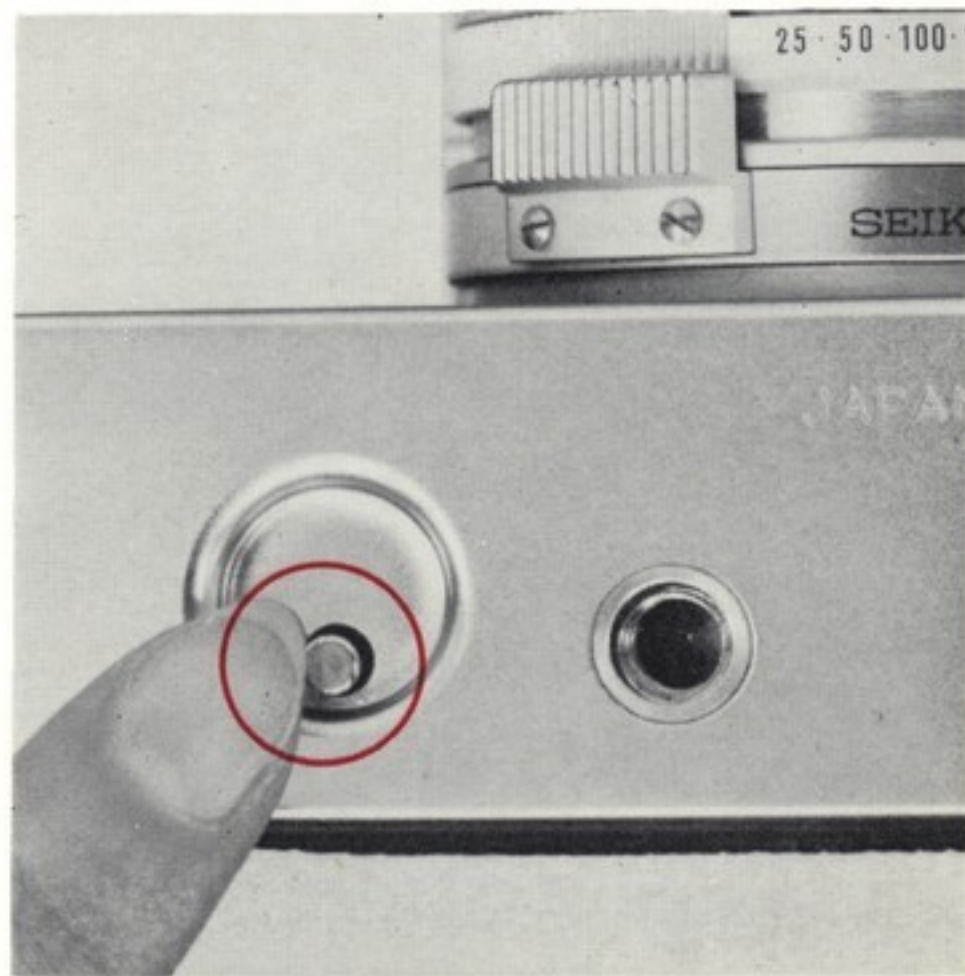
3. ガイドナンバーについて

- a. ミノルタデュオフィットガンをお使いになるときは 発光器の裏のガイドナンバー表をご覧になってきめてください
- b. その他の発光器をお使いになるときはその発光器の説明書または ガイドナンバー表をよくお読みになったうえでガイドナンバーを決めてください
- c. 閃光球の箱に書いてあるガイドナンバーはよく磨かれた最高の条件の反射傘を使った場合の数値で 一般の反射傘の場合 そのままガイドナンバーをうのみにして使いますと露出不足になることもありますからご注意ください

4. カメラブレに注意してシャッターを切ります

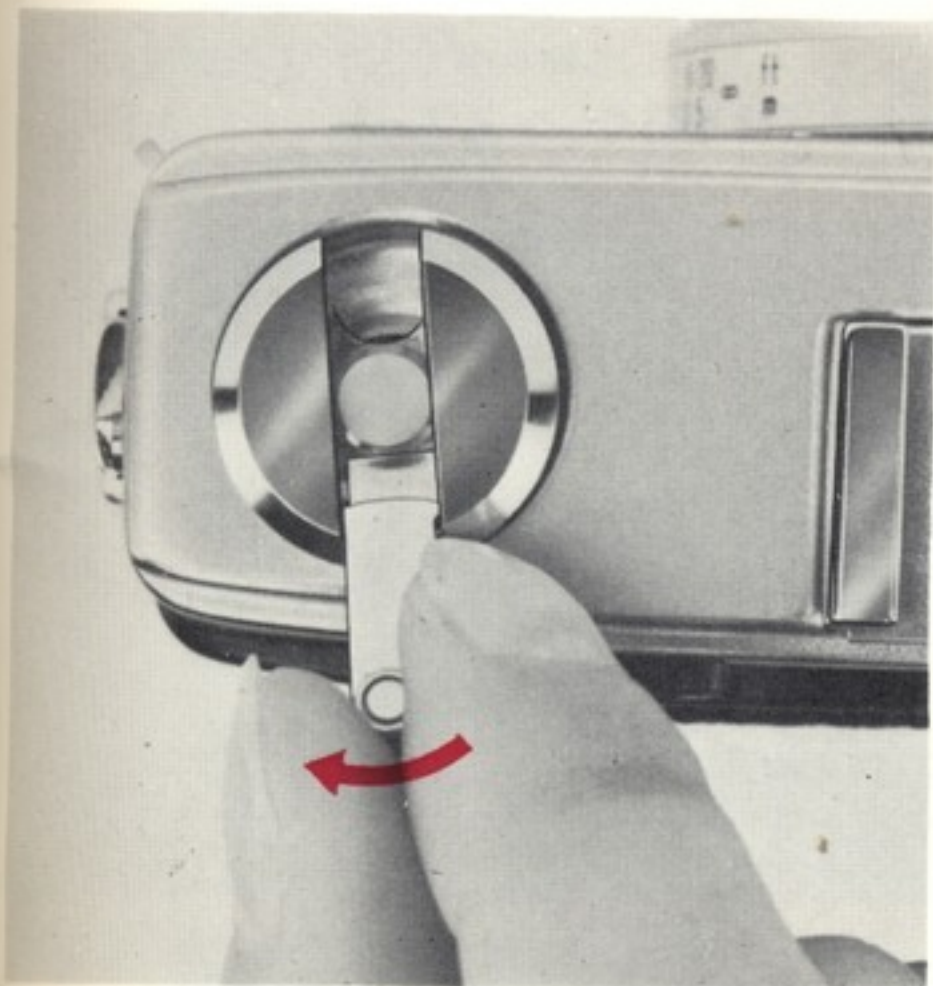


撮影は完了しました

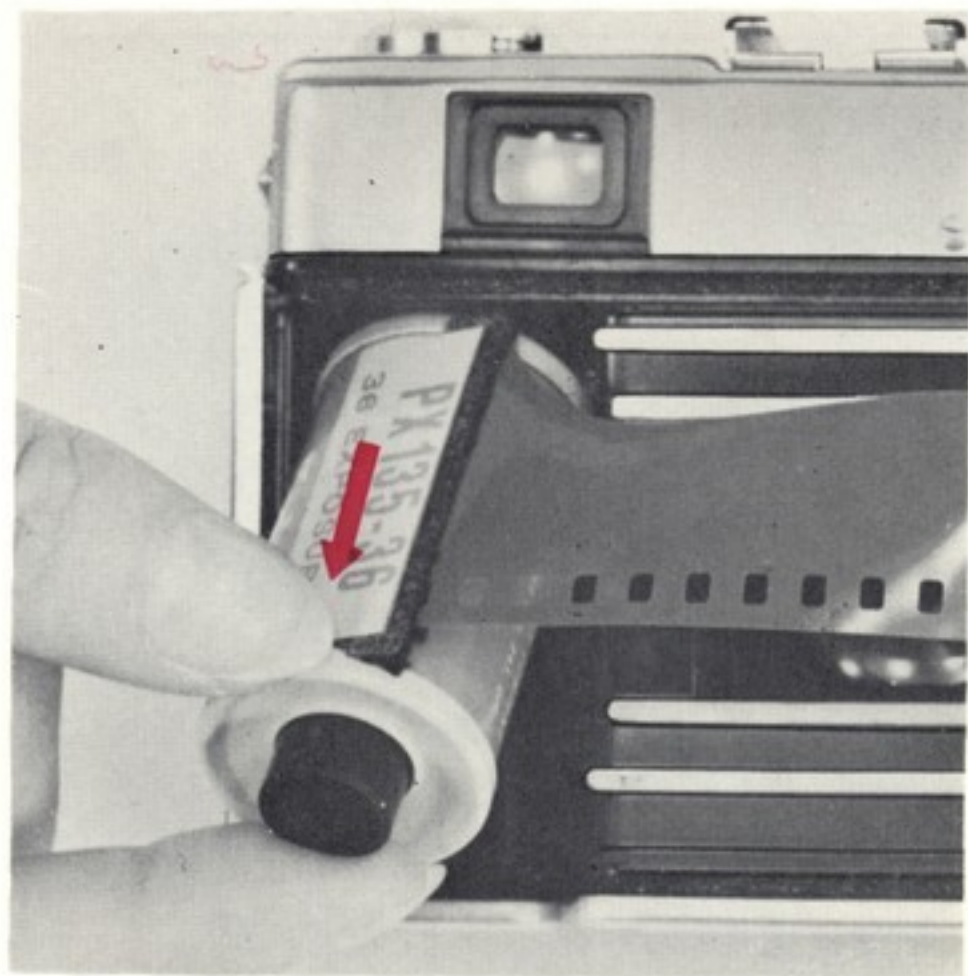


フィルムカウンターに20（20枚撮り）または36（36枚撮り）の数字が出ると撮影は完了します。このとき無理に巻上げるとフィルムが切れたりすることがあります。撮影されたフィルムは裸のまま巻きとられていますので、もとのパトローネに巻戻さねばなりません。

- 1** フィルムの取出し方
カメラ底部にあるフィルム巻戻しボタンを押します。もしボタンが戻ったときは、巻上レバーを巻上げて再び押し下さい。



2 巻戻しクラックを起し 矢印の方向にまわします。フィルムが巻取軸からはなれるとき 少し抵抗を感じてから軽くなります。それでフィルムが巻戻されたことがわかります



3 巻戻しが終わったら裏蓋のロックをはずして裏蓋を開きパトローネを取出します

- ・巻戻しボタンは巻上げレバーを巻上げると自動的に戻ります

無用の光線を防ぐレンズフード



ミノルタALSには次の専用アクセサリを用意致しております
これらのアクセサリは一般撮影用の必需品ですからぜひおすすめします
あなたの作品が一層すばらしくなる
ことでしょう

フラッシュ撮影のときなどに レンズの写角外から入る有害光を防止してより美しい写真がとれます

¥500 (ケース付)

美しい写真のとれるフィルター

UV



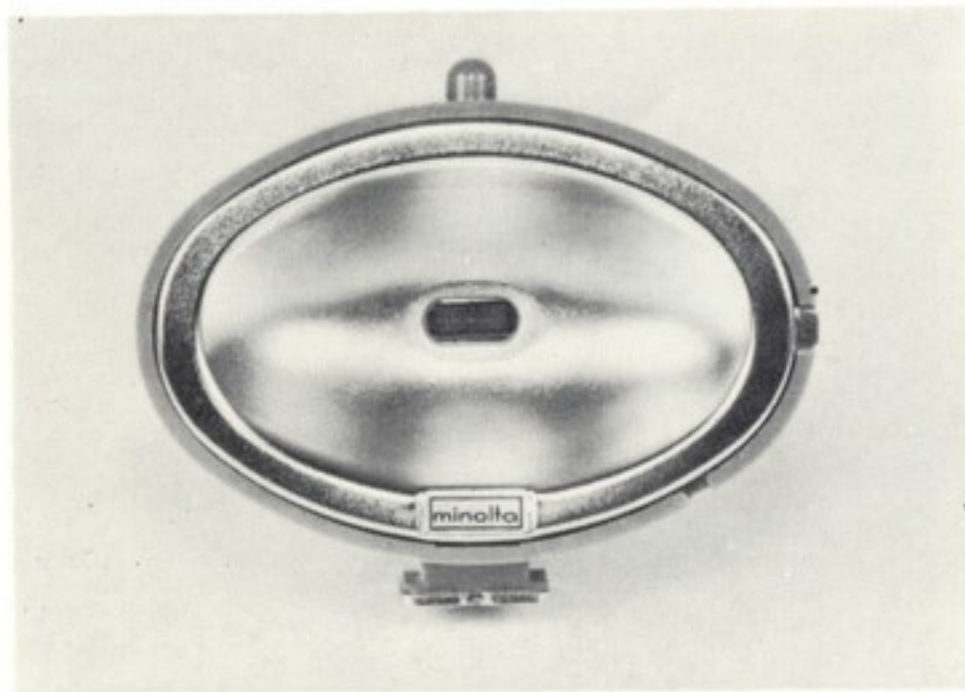
紫外線を吸収し 海浜や高山ではなくてはならないもの。露出倍数がかからないので レンズ保護にもよく またカラー 白黒撮影の常用フィルターとして使用しても便利です ¥600

Y-48



白黒フィルムで 海浜や雲のある風景などを撮影する場合に 青味を押さえ 白雲などを強調したいときに効果を発揮します (露出倍数×2) ¥600

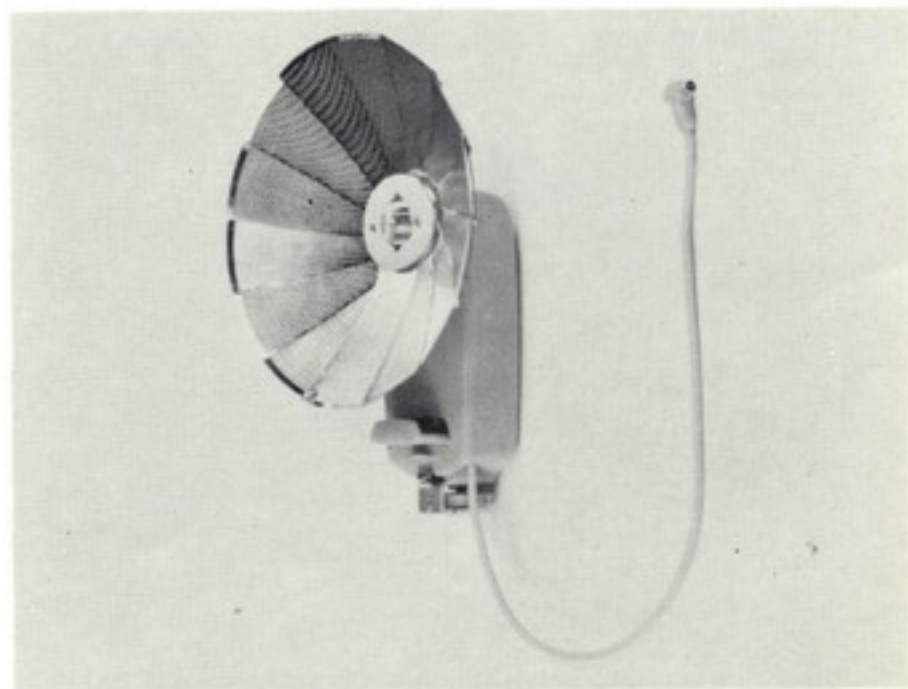
フラッシュ撮影にはミノルタフラッシュガンで…
ミノルタ デュオフィットガン



小型で性能はきわめて良く、デザインもユニークです。ミノルタALSに取付けるとシンクロコードは不要です。もちろんほかのカメラにも使用できるように考慮されています

¥1,200

ミノルタ デラックスガン

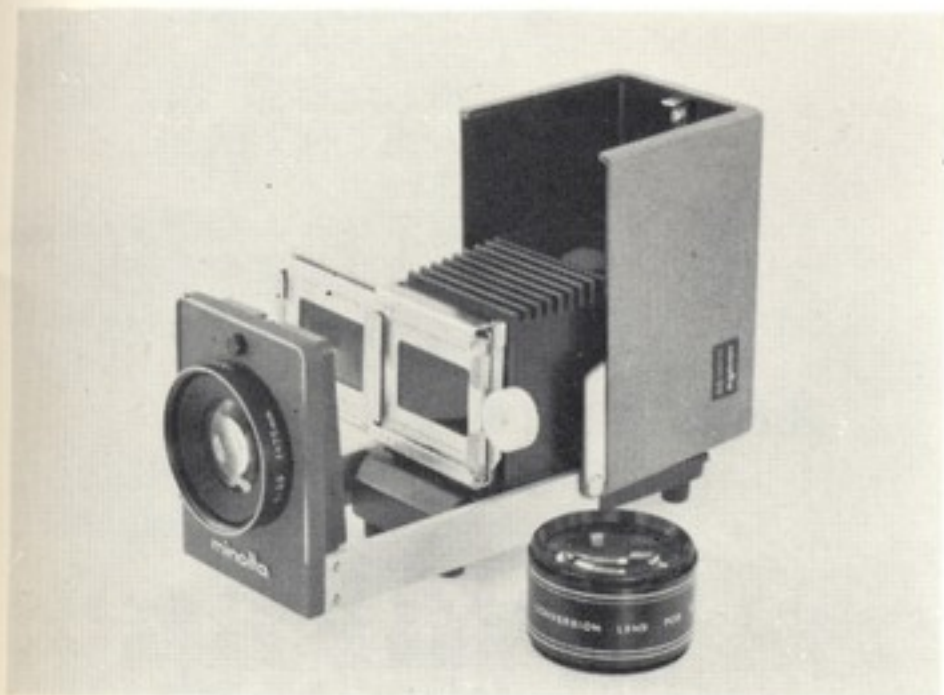


夜間撮影や光量不足の場所で威力を発揮します。また三種のフラッシュバルブが使用できます

¥1,400

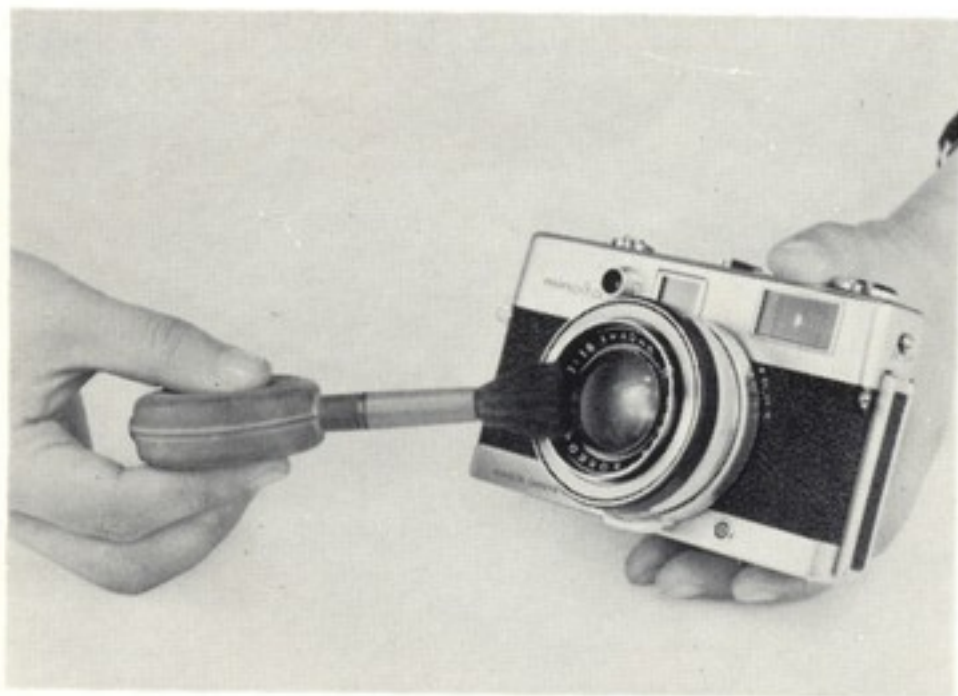
カラーの美しいスライド映写

ミノルタ ミニ35Ⅱプロジェクター



カラーで撮影したスライドを一家揃って楽しく映写して下さい。テレ・ワイドのコンバージョンレンズを用意しておりますので 広い部屋でも狭い部屋でも自由に映写できます

ミニ35Ⅱプロジェクター	¥4,900
ケース	¥ 470
コンバージョンレンズ	¥2,300



使ったあとは…

- レンズに手を触れないようご注意ください。もし誤って汚した場合、清けつな木綿の布で軽く拭きとってください
- 梨地クローム面が余り汚れたときは布に少しベンジンをつけて拭くときれいになります

使わないときは…

- 1ヶ月以上お使いにならないときは水銀電池を取出しておきましょう
- カメラを長持ちさせるには高温湿気や多量の塩分を含む薬品のある場合はさけてください
- カメラを乾燥剤（シリカゲルなど）といっしょに缶のなかにしまっておくと安全です

各地サービス・ステーション

- 東京 東京都中央区銀座東6-7 (木挽館新館)
TEL 542-1261 (代表)
- 新宿 東京都新宿区角筈1-1
(新宿ステーションビル)
TEL 352-6552
- 大阪 大阪市南区塩町通り4-18
TEL 271-8671 (代表)
- 名古屋 名古屋市中区錦1丁目20番19号
(名神ビル)
TEL 221-8761
- 福岡 福岡市神屋町1番25号
TEL 29-7823
- 札幌 札幌市北二条西3-1 (越山ビル)
TEL 25-9681
- 広島 広島市東千田町1丁目3-13 (葵ビル)
TEL 41-1404
- 仙台 仙台市勾当台通8 (熱海ビル)
TEL 23-8783
- 新潟 新潟市東大通1-23 (マルタケビル)
TEL 44-3026

ミノルタカメラ株式会社

No. 6C5A